

「その他」の事例

相談事例 障がい種別:聴覚障がい

(施設からの相談)

スポーツのイベントに、自治体の福祉課を通して、聴覚障がい者が参加したいので、手話通訳を付けてほしいと申し出がありました。

主催者は、手話通訳の予算がなかったこともありましたが、今回のイベントが、通訳ができる講演会とは違い、参加者がスポーツをしながら、講師によるアドバイスを受けるものであるため、手話通訳だけで解決できるものでもないと思われ、また、聴覚障がい者が「ろう者」なのか「難聴」なのかわからないなど、どう対応すべきかという相談がありました。

対応⇒

障害者差別解消法に基づく民間事業者による「合理的配慮の提供」の義務については、必ず手話通訳をつけることが「義務」ではなく、どういったことなら対応できるのかなどしっかりと話し合うことが大切であると伝えました。参加者本人にも、今回のイベント内容を理解していただいたうえで、参加者にとってどのような対応が適切なのか、確認する必要があるため、主催者において、自治体の福祉課から紹介された「電話リレーサービス」を利用して、参加者と意見交換をしました。その結果、手話ではなく、筆談で伝えることでよいとの確認がとれました。

当日、講師にも参加者の中に聴覚障がい者がいること、筆談で対応する旨を伝え、スタッフ 1 名が付き添い、筆談(筆談ボードを購入)で対応しました。参加者ご本人も笑顔で楽しんでおられたようです。